



K-RIP情報

KYUSHU RECYCLE AND
ENVIRONMENTAL INDUSTRY PLAZA

vol.1 #2013

(一財)九州産業技術センター

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13-24

TEL 092-474-0042 FAX 092-472-6609

URL <http://www.k-rip.gr.jp>



マレーシア・マラッカ州政府団と鶴田会長
(歓迎レセプション)

《Contents》	《Page》
I. 平成 25 年度 K-RIP 総会	2～5
II. K-RIP プロジェクト	6
III. 展示会出展支援	7～9
IV. 九州—マレーシア環境産業交流	10～13
V. 環境ビジネスの創出と人脈形成の場「エコ塾」	14～19
VI. K-RIP マネージャーのご紹介	20
VII. 平成 25 年度 K-RIP 事業計画	21～22

I. 平成 25 年度 K-RIP 総会

平成 25 年 5 月 29 日、ハイアット・リージェンシー福岡におきまして、企業・自治体等 103 会員（委任状：119 通）の出席のもと、平成 25 年度九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）総会を開催しました。

冒頭、鶴田会長の挨拶および K-RIP 顧問の廣實郁郎九州経済産業局長の来賓挨拶のあと、吉田哲雄(株)ワイビーエム代表取締役会長を議長に選出し、平成 25 年度事業計画（案）など 5 議案について審議し、すべて異議なく承認されました。

今回の役員改選においては、副会長 2 名、理事 6 名、監事 1 名が改選されました。

また記念講演では、(株)リサイクルワン取締役の本田大作氏をお招きして、『環境ビジネスの取り組み状況と今後の方向性』という演題でご講演いただき、大変興味深いお話を伺うことができました。

- | | | |
|--------|---------|---------------------|
| (総会議案) | 第 1 号議案 | 平成 24 年度事業報告について |
| | 第 2 号議案 | 平成 24 年度収支決算報告について |
| | 第 3 号議案 | 平成 25 年度事業計画（案）について |
| | 第 4 号議案 | 平成 25 年度収支予算（案）について |
| | 第 5 号議案 | 役員の改正（案）について |



〔鶴田会長挨拶〕



〔議長を務めた吉田副会長〕



〔総会の様子〕

■会長挨拶 鶴田 暁 氏 【環境テクノス株式会社 代表取締役】

本日は、皆様お忙しい中、平成 25 年度 K-RIP 総会にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。平成 11 年 11 月に K-RIP が発足しまして、今年で 14 年目を迎えます。この間、K-RIP を取り巻く環境は、3R を始めとした資源循環型社会の構築から低炭素社会の実現へと広がりを見せ、今や全産業、全企業が環境問題に取り組んでいかなければならない時代に突入しております。

K-RIP としても、会員様とともに、ますます高まる社会的要請に応えていきたいと考えております。



さて、本日の総会では、24 年度の事業結果と 25 年度事業計画につきまして、皆様にご審議頂きます。少しご紹介させて頂きますと、24 年度の活動においても、多くの成果が出ていると伺っております。これも、会員皆様の果敢な挑戦が実った結果だと思います。また、25 年度の事業計画の方針は、昨年度に引き続き、「イノベーションの創出促進と国際競争力強化」としまして、この方針の下、各種事業を企画しております。

この「イノベーションの創出促進と国際競争力強化」という方針が策定された背景には、環境・エネルギー産業をとりまく事業環境の変化があります。環境・エネルギー分野では、近年、また新たな法規制の動きが出ております。この法規制に対して、どのように対応し、社会的要求に応えていくのか、個々の企業に、特に環境ビジネスに取り組む企業に、変革が期待されています。

この変革を生み出すには、企業のイノベーション活動が重要になってきます。このため、依然として注目される「省エネ技術」や「省資源化」等の技術等を取り込んだイノベーションの創造や、K-RIP が持つ「広域的なネットワーク」を活用したイノベーションの創造にも取り組んでいく必要があると考えます。

このような背景を踏まえ、「イノベーションの創出促進と国際競争力強化」という方針の下、25 年度も様々な事業が企画されました。詳細は後ほど、各部会長からご説明がありますので、皆様のご理解を得られればと存じます。

さて、総会の後半に行われます基調講演は、プラスチック・リサイクルビジネス、アジアコンサルティングビジネス等を手がける株式会社リサイクルワン 取締役 本田大作様から、「環境ビジネスの取り組み状況と今後の方向性」と題してご講演を頂く予定でございます。同社の先進的なリサイクルビジネス等は、皆様にとって、大変参考になるものと思います。

最後になりますが、K-RIP 事務局のスタッフの一部に入れ替わりがあり、新たな体制となります。後ほど紹介がありますが、この新たな体制で、会員の皆様と一緒に、今年度もいろんな事業に取り組んでいくこととなりますが、引き続き、皆様方の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

■ 来賓挨拶 廣實 郁郎 氏 【九州経済産業局長】

ただいまご紹介いただきました九州経済産業局長の廣實でございます。本日ここに、鶴田会長をはじめ、会員の皆様方の多数のご出席の下、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザの平成 25 年度総会が、かくも盛大に開催されましたことに対し、心からお慶びを申し上げます。

はじめに、この場をお借りしまして、皆様方にお願いがございます。電力需給について、皆様方には大変ご心配・ご迷惑をおかけしております。今夏、九州管内においては、「数値目標を伴わない節電」をお願いすることとなりました。今年の見通しは、昨年ご協力いただいた節電効果の実績を加味（2010 年度夏比でマイナス 8.5%）し、かつ他電力からの融通を織り込んだもので、発電所トラブル等の発生リスクを踏まえると依然として厳しい状況となっています。

このため、7 月 1 日から 9 月 30 日までの平日でお盆をのぞいた期間、生活や経済活動等への影響を極力回避した、無理のない形で、昨年に引き続き節電のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、K-RIP は平成 11 年に設立され、今年で設立 14 周年を迎えますが、年を重ねるごとに、その活動は国内はもとより海外からも注目を集めており、国内最大級の環境ビジネスネットワークとして存在感を増しています。

その間、長期にわたり、円高・デフレ・エネルギーコストの高騰など、企業活動を取り巻く環境は大変厳しい状況にありましたが、今年に入り、個人消費の持ち直し等を背景に、生産が緩やかに持ち直しており、少しずつではありますが反転の兆しを感じ取れる動きが出てきています。

政府においても、平成 24 年度補正予算を含めた緊急経済対策と平成 25 年度予算の着実な執行をして参りますが、K-RIP 会員企業の皆様方におかれましても、「ものづくり補助金」「先端設備等投資促進事業費補助金」などの施策を活用し、新たなチャレンジによる新商品・新サービスの開発や販路開拓などに取り組んでいただきたいと思います。

このような中、K-RIP では、25 年度、従来から取り組まれている各種事業をさらに強化されるほか、加えて、『国際競争力のある環境・エネルギー産業群』の創出に向けて、①エネルギー産業等異分野との融合による「イノベーション創造」、②「他地域の環境クラスター等との連携によるイノベーション創造」、③「ASEAN 地域（マレーシア）への交流拡大による販路拡大」など、新しい取り組みにチャレンジされると伺っております。

こうした取り組みは、まさに時流を得たものであり、私ども、九州経済産業局としても大きな期待を寄せております。

私ども九州経済産業局としまして、他省庁、関係自治体、経済団体等との密接な連携により、九州地域の環境・エネルギー産業のビジネスの拡大、国際競争力の強化に向けて取り組んで参りたいと考えています。

最後になりましたが、K-RIP の活動が今後もますます発展し、ここにお集まりの皆様の環境ビジネスがより一層拡大することにより、九州地域の経済が活性化することを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



■ 記念講演

「環境ビジネスの取り組み状況と今後の方向性」

株式会社リサイクルワン 取締役 本田 大作 氏

(職歴)

1998 年 4 月 株式会社三菱総合研究所 地球環境研究本部に研究員として入社し、環境・リサイクル関連の政策立案から、エコタウン構想策定、環境経営、事業化コンサルティングまで幅広い業務に従事。現在株式会社リサイクルワン取締役。



【講演概要】

2000 年の 8 月にエコタウン大学（現クラスター大学）の第一期生として受講したことを契機に環境ビジネスの発展性を感じ、翌年友人たちと独立をした。その後、プラスチックリサイクル事業を中心に展開、最近ではメガソーラー等も手掛けており、現在約 43 億の売上をもっている。

まずはプラスチック事業の紹介をしたい。現在は容器包装リサイクル法に基づく再生処理事業を行う会社を複数もっており、トータルで 71,000 トン／年の処理能力がある。近年はその利用用途の拡大も見られ、マンションや大型ショッピングセンターの地下に埋め込む雨水貯留槽等への活用も進んでいる。さらに自動車部品等への工業製品化も進んでおり、この分野の技術革新が進んでいる。その他にも東北の被災地の復興資材としても活用されており、手で施工できる復興資材により雇用創出にもつながっている。また、雨水貯留槽を活用した被災地初の水耕栽培を行う植物工場も昨年立ち上げている。今後この分野では容リプラの工業製品化推進と素材産業化、東南アジアでのコンパウンド事業、リサイクルの社会コスト低減のための日本版ソーティングセンターの推進に取り組んでいく予定である。

続いてメガソーラー事業について説明したい。昨年から電力の買取単価が大幅に下がっており、メガソーラー事業をやるのも今年いっぱいと考えているが、今後その他の再生可能エネルギー事業の取組としては、新規開発として牧草地や採石場跡地、ゴルフ場跡地等の平坦な土地で進めていきたい。また、アジア地域での再生可能エネルギー事業にも今後可能性があると考えている。

その次にコンサルティング事業の説明をしたい。国のコンサルティング事業も多くやっているが、それ以外にもアジアでの再生可能エネルギーや省エネビジネス、プラント販売を中心に考えており、特に東南アジアを中心にコンサルティングビジネスを展開している。例えばインドネシアの水力発電所改修事業化、マレーシアでの総合リサイクル・廃棄物発電事業、ベトナムでの飲料工場省エネ・ソリューション販売事業等のコンサルティングを行っており、日本では省エネ市場のポテンシャルは少なくなってきたが、途上国ではまだまだ日本の技術が生かせるところが多いと感じている。またインドやミャンマーでマイクロ水力発電プラントによる電化プロジェクトコンサルティングを行っており、無電化の地域を対象に BOP マーケット向けの小型の水力発電を各国政府とも連携しながらやろうとしている。

当社は常に新しい環境ビジネスを発掘することを命題として取り組んでおり、技術シーズの発掘を事業化につなげるということを重要視している。その中でも技術の差別化が必要で、いろんなところに眠っている技術を発掘してアライアンスを構築し、ビジネスモデルを立ち上げ、可能であれば補助金を取得して事業化するという過程を考えている。

今後の環境ビジネスの方向性としては、廃棄物の処理から素材ビジネスへと展開を図っており、処理費を中心とした売上から素材を中心とした売上に変えていくことで大きなポテンシャルがあると考えている。日本での再生可能エネルギービジネスについては、そう長続きするものではないと考えているので、アジアでの省エネビジネスの展開も進めていきたい。また、アジアでのスマートアグリビジネスも考えており、食料が足りないエリアでこのようなビジネスを行うことがポイントだと考えている。

II. K-RIPプロジェクト

K-RIPプロジェクトとは、新たな環境関連プロジェクトに関する提案を公募し、採択したプロジェクトの実現に向けて、資金の一部助成や専門家による指導・助言を行う支援事業です。

平成 25 年度は、8 件の応募があり、4 件のプロジェクトが採択されました。

《審査日：平成 25 年 4 月 24 日（水）》

◆提案者：株式会社 ワイビーエム（佐賀県唐津市） ◆テーマ：「塩害および油汚染土壌の浄化を目的とした微細気泡水生成装置の商品に向けた改良事業」 ◆概要：マイクロおよびナノレベルの気泡を含んだ微細気泡水を生成する装置開発、効果検証、販売。微細気泡水を用いた洗浄により塩害に対する塩分除去や油分に対する洗浄での水使用量の削減及び薬品使用量の削減による環境負荷の低減を目的とする。
◆提案者：株式会社 アマミファッション研究所（鹿児島県奄美市） ◆テーマ：「黒糖焼酎粕リサイクル化粧品「あま肌」の環境配慮型・小容量商品の開発」 ◆概要：現在、通販を主体に販路を広げているが、より多くの焼酎粕のリサイクルを推進するため、コンビニ・ドラッグストアなどの小売店舗での販路拡大を行う必要がある。 食品・飲料業界では、容器形状の変更や、容量の小型化で売り上げを伸ばしている傾向がある。本戦略に習い、小容量化商品の開発を行い、小売店用として販売を目指す。 その際、環境配慮型商品であることをより PR するため、パッケージの簡素化やリサイクル素材のボトル採用の検討を行う。
◆提案者：株式会社 吉良セイショー（福岡県福岡市） ◆テーマ：「バーク（樹皮）の発酵熱を利用した施設園芸ハウス用暖房システムの検討」 ◆概要：バーク（樹皮）の高い発酵温度と、長期の発酵維持に着目し、発酵熱を施設園芸用の暖房熱として利用できないか試みる。施設園芸を営む農家様のハウスの内部又は外部に本システムを設置し、熱交換技術の検討加温の効果を試験する。また、コスト試算を行い、適正なハウスの規模や知的財産について検討を行う。
◆提案者：有限会社 柳川商事（福岡県柳川市） ◆テーマ：「福岡県南筑後地区地方自治体家庭系一般廃棄物の廃プラスチック資源化システム研究会」 ◆概要：実証試験機で、廃プラスチックから収率約 8 割の再生重油相当燃料を生成し、大木町の温浴施設他のボイラー燃料に利用する試験を実施し、自治体の資源化施策と連携した事業化が有望の見通しとなった。 しかし、人為的操作ミスにより火災事故が発生し、現在、運転を休止いたしており、安全性を確保した施設の設計・建設と、本油化事業化を組み込んだ地域のプラスチックリサイクルシステムの構築が、今後の課題として残っている。 今年度以降、これまでの取組の成果と課題を踏まえ、安全性の高い油化施設の開発・導入による、福岡県南筑後地区プラスチックリサイクルシステム構築の具体化を目指す。



〔プレゼンの様子〕



〔審査会の様子〕

III. 展示会出展支援

国内・海外から集客のある環境展示会において、費用面（無料出展）、ソフト面（K-R I Pのマネージャーによるアドバイス）で支援し、販路開拓をめざします。平成25年度は、エコテクノ2013（北九州）、びわ湖環境ビジネスメッセ2013（滋賀県長浜市）において展示・プレゼン・商談会を行う予定で、以下の6社の製品が採択されました。

エコテクノ2013（10/16～18）〔3社：ソフィアエンジニアリング(株)、(株)ミゾタ、(株)宮防〕

◆**提案者**：ソフィアエンジニアリング株式会社（福岡県北九州市）

◆**製品名**：①創生バッテリーシステム②ベランダ、あるいはアウトドアでも使用できる太陽電池セット
③南極で使用されている柔軟翼風車、スパイラルサボニウス風車④ハイブリッド街灯

◆**概要**：創生バッテリーシステムは、電力会社等から廃棄される高級鉛蓄電池を更生し、従来廃棄物となっていたバッテリーを新品同様にリユースし、災害時緊急電源、太陽光発電の蓄電、夜間充電昼間仕様電力平準化装置等に使用できる。

ベランダ、あるいはアウトドアでも使用できる太陽電池セットは、創生バッテリーシステムと組み合わせることにより日常のパソコン電源あるいは非常時の電源として使用可能。

風車は、安全・静か・自己制御性のある特殊な翼により、どんな強風でも発電し、南極の昭和基地で使用されている。

ハイブリッド街灯は、グッドデザイン賞（2002年）を受賞し、北九州のエコプレミアム商品である。



創生バッテリー



太陽電池セット



風車



ハイブリッド街灯

◆**提案者**：株式会社ミゾタ（佐賀県佐賀市）

◆**製品名**：マイクロ水力発電装置「スイロン」

◆**概要**：低水位でも発電できる水力発電装置で下記の特徴を有す。

- ・コンパクト、静かな運転、安価
- ・ゴミ通過型（特許出願中）湾曲形スクリーンにより通過し易い。万が一羽根車に掛かったときは、可動床が反応しゴミを通過させる
- ・ゲートの中に組み込めば、豪雨時には上げることも可能



◆**提案者**：株式会社 宮防 （宮崎県宮崎市）

◆**製品名**：遮熱塗料「ファームバリア」

◆**概要**： 熱反射顔料・特殊セラミックを配合した高反射塗料である。本製品を塗ることによって太陽光の近赤外線を反射・散乱させ、特殊セラミックの働きでいったん吸収した熱の放射を行う。赤外線カメラを使用しての温度測定では、鋼板屋根で塗装前と塗装後では、15 ～20℃程度の温度低減効果が認められている。

用途別目的として、一般住宅、工場などの省エネ・節電対策として、屋根及び外壁に塗ることにより、室内温度の上昇を抑制し、冷房効率を向上させる。



ファームバリア



遮熱メカニズム

びわ湖環境ビジネスメッセ 2013 (10/24～26) [(株)ビルメン鹿児島、T・プラン(株)、(株)ファイル]

◆**提案者**：株式会社 ビルメン鹿児島（鹿児島県鹿児島市）

◆**製品名**：次世代型小型風力発電機 TOMO の風 YG5000（定格出力 5Kw）
WINWIN3000（定格出力 3Kw）

◆**概要**： 従来の小型風力発電機の問題点とされてきた多くの課題（弱風での発電効率、強風時の安全対策、メンテナンス、騒音問題）を改善した他に類を見ない次世代型小型風力発電機であり、下記の特徴を有す。

- ・弱風域から強風域まで万遍なく高出力
- ・内蔵フライホイールの慣性エネルギーを利用した安定出力
- ・静寂性維持・低周波ゼロの独自設計ブレード
- ・災害時の非常用独立電源として最適
- ・世界中の設置個所を遠隔監視・操作
- ・地上設置・屋上設置可能 3 m²
- ・ハイブリッド化可能（太陽光発電、小水力等）
- ・昼夜問わず 24 時間発電可能。



◆**提案者**：T・プラン株式会社（大分県中津市）

◆**製品名**：青空コンセント

◆**概要**： ガレージ型の小型電気自動車用充電ステーションで、太陽光発電パネル、ガレージ型の構造物、蓄電池、制御装置、コンセントで構成されている。

太陽光の自然エネルギーだけで充電でき、蓄電池にためることにより夜間でも利用が可能。置くだけの簡単設置で基礎工事や電気工事が不要な完全独立型のため非常用電源にもなる。強風対策として太陽光パネルがなびく機構を開発し、現在、特許申請中。



セブンイレブン（大分県中津市犬丸店）



中津商工会議所

◆**提案者**：株式会社 ファイル（福岡県筑紫野市）

◆**製品名**：びわ湖の森の木になる紙

◆**概要**： 間伐材を原料に使用した「木になる紙」は、商品代金の一部を森林所有者に還元する仕組みにより、消費者と森林を結び林業・山村の活性化、地球温暖化防止に貢献している。

本製品は、びわ湖の間伐材を使用しており、びわ湖の木が活性化すると、飲み水として利用されているびわ湖の水質浄化にもつながる。

また、1箱あたり約 1kg のカーボン・オフセットが付いているので、購入いただいた方のCO2排出量を相殺（オフセット）することもできる。

これまで「木になる紙」は約 100 万箱を売り上げ、カーボン・オフセットで約 587 トンのCO2を削減、間伐材使用で 5000 トン以上のCO2を吸収しています。

また、平成 18 年 12 月、九州・沖縄を含む 8 県庁・林野庁・民間企業で構成する『国民が支える森林づくり運動』推進協議会を設立し、森林づくりを応援する運動も行っている。今お使いの紙を「木になる紙」に替えるだけで、森林づくりと地球温暖化防止の活動に参加できる。



IV. 九州－マレーシア環境産業交流

アセアン地域の関心が高まるなか、平成23年度は、ASEAN地域の環境市場調査、24年度は、マレーシア環境産業調査ミッションを派遣しました。今年度は、マレーシアの環境産業参入に向けた研究会、現地調査を行うとともに、マレーシア（マラッカ州）政府機関の招へい、マレーシアでの環境見本市へのミッション派遣を計画しています。

1. 第1回 マレーシア環境ビジネス研究セミナー開催

【開催日時】 平成25年5月10日（金） 15：00～17：30

【開催場所】 毎日西部会館（北九州）

【主催】 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ、北九州商工会議所、ジェトロ福岡

【協力】 九州経済産業局、アジア低炭素化センター

【プログラム】

15：00～15：05 主催者挨拶 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ 会長 鶴田 暁氏

15：05～15：45 「リサイクル分野におけるインフラ・システム輸出について」

経済産業省産業技術環境局 リサイクル推進課 課長補佐 小林 雅明氏

15：45～16：25 「マレーシア（マラッカ州）の環境ビジネスの機会と市場参入戦略」

長崎大学 准教授

株式会社リサイクルワン環境コンサルティング マネージャー 宮川 英樹氏

16：35～17：20 「マレーシアとの環境産業交流の計画（案）と意見交換」

九州経済産業局資源エネルギー環境部 環境対策課 課長 佐藤 寛氏

17：20～17：30 事務局からの連絡事項

北九州商工会議所 産業振興部 部長 白石 佳則氏

2. マレーシア（マラッカ州）政府機関の招聘

7月8日（月）～10日（水）、マレーシアマラッカ州政府団（ダトゥク・ユノス大臣ほか7名）を招聘し、以下の交流プログラムを実施しました。

【8日】 午前 九州経済産業局表敬訪問、エコタウンセンター 視察



九州経済産業局訪問



エコタウンセンター視察

【8日】 午後 日本磁力選鉱(株) (北九州市) 視察、TOTO(株) (北九州市) 視察
 歓迎レセプション@リーガロイヤルホテル小倉



日本磁力選鉱(株) 視察



TOTO(株) 視察



歓迎レセプション



歓迎レセプション

【9日】 午前 トータルケア・システム(株) (大牟田市) 視察
 午後 (株) ミゾタ技術センター (佐賀市) 視察
 (株) ミゾタ マイクロ水力発電現場 (小城市) 視察



トータルケア・システム(株) 視察



(株) ミゾタ視察

【10日】 午前 九州経済産業局にて意見交換会

主な内容

- ・ K－R I Pとマラッカグリーンテクノロジーコーポレーション間のMOU締結で大筋合意
- ・ 今後の予定確認
 - ・ 8月末に事前調整のため、九州経済産業局とK－R I Pがマレーシアを訪問
 - ・ 10月初旬から中旬にかけてマレーシア環境ミッションを派遣し、MOU締結
 - ・ ミッション派遣期間中は東南アジア最大の環境展示会「IGEM2013」を視察し、商談会等を実施



九州経済産業局で意見交換会



九州経済産業局で意見交換会

【10日】 午前 正興電機製作所（株） 古賀事務所（古賀市） 視察



正興電機製作所（株）視察



正興電機製作所（株）視察

【10日】 午後 九州エコフェア2013視察 （福岡市）

主な内容

- ・ 企業ブースを訪問
- ・ マレーシア“マラッカ州”の発展と環境対策セミナー 開催
 - 講演1：インベストマラッカ ラムリ局長 （30分）
 - 講演2：グリーンテクノロジー協議会 ハフィザム氏 （30分）
- ・ 企業面談（申込があった企業）
 - 菱興産業(株)、(株)エコファクトリー、(株)日本リモナイト、(株)南陽 （各20分）



企業ブース訪問



企業ブース訪問



セミナー風景



セミナー風景



個別商談



個別商談

今回のマラッカ州政府団の訪日を通じて、同政府団が、K-R I P企業の高い環境技術・社会システムを確認することにより、K-R I Pとの環境ビジネス交流への関心を高めることができました。

また、マラッカ州政府団との協議では、K-R I Pとマラッカ・グリーンテクノロジーコーポレーションが今後MOUを調印し、具体的なアクションを起こしていくことで合意に至りました。

V. 環境ビジネスの創出と人脈形成の場 「エコ塾」

—毎月第2木曜日開催—

K－R I Pでは九州経済産業局と連携して、異業種交流を通じて環境ビジネスの創出と人的交流、企業間交流の活性化を目的とする、「エコ塾」を毎月1回開催しております。「エコ塾」は、環境関連ビジネスに取り組む企業や支援団体等のプレゼンテーション（毎回2社講演）と講演会後に行います参加者交流会（立食形式）の2部形式となっております。

今回は第68回～第71回までの概要を報告します。

第 68 回エコ塾

【開催日時】平成25年4月11日（木）17：00～

【参加人数】講演会：61名 / 交流会：37名

○『R＆R事業（食物リサイクルループ）の紹介』

〔発表者〕：株式会社トワード 執行役員 本部長 友田 昭二 氏

〔概 要〕： 物流会社である当社だからこそ提供することができるR＆R事業についてご紹介していただきました。R＆RとはReverse Logistics & Recycleを略したものです。生産者から消費者に向かう物流の管理を意味する「ロジスティクス」に対し、その反対となる消費者や利用者から、生産者へと向かう物流を管理するロジスティクスが、「リバースロジスティクス」であり、物流会社である当社のノウハウを生かしリサイクル事業へ展開している事業を意味します。つまり、通常の配送業務と回収業務（食品残渣など）を同じ車（ルート）で行うことで、極めて合理的なリバースロジスティクスを目指しています。勿論、配送と回収に同じ車を使用するため、その衛生管理や収集方法などは、研究、実証試験を重ね独自の手法を確立しています。同時に堆肥化やその有効利用についても、研究機関と連携しながら、作物の生産から販売までのループも日々検討しています。

本事業は、食品リサイクル法に基づく「再生利用事業計画（リサイクルループ）」として、平成24年2月に北部九州で初めて、国（厚生労働省・農林水産省・環境省）から認定されました。

当日は、多くの質問が飛び交い参加者の関心を誘う講演でした。

○『地球に優しい、樹木粉碎機と木質チップ燃焼型バイオマス加温機の紹介』

〔発表者〕：株式会社 大橋 営業部 池田 詩絵 氏

〔概 要〕： 当社の主力製品である樹木粉碎機と、現在開発中の木質チップ燃焼型バイオマス加温機についてご紹介していただきました。

樹木粉碎機とは、木や竹を細かなチップに粉碎する機械で、当社製品は、木、枝、竹、草、稲わら等、様々な物を粉碎できます。また、単に機械を販売するだけでなく、粉碎した後の木質チップ利活用法をお客様へご提案することにも力を入れています。現在、その新たな活用法として木質チップを燃料としたバイオマス加温機の開発を行っています。これまでチップの燃焼や黒煙対策に関して専門家にアドバイスを受け、何度も試作と試験を繰り返してきました。先月、ようやくビニルハウスでのテストにこぎつけ、現在そのテストをしています。

木質チップは重油に比べて低価格であり、燃料費の削減が期待できます。さらに「カーボンニュートラル」という考えのもと、地球環境にやさしい、CO2 削減に寄与できる加温機です。

参加者からの質問も多く、地球温暖化防止及び CO2 削減の観点から今後の活躍を期待するところです。



(株)トワード 友田氏



(株)大橋 池田氏



質疑応答

第 69 回エコ塾

【開催日時】平成25年6月6日（木）17：00～

【参加人数】講演会：58名 / 交流会：33名

○『エネルギーの地産地消「青空コンセント」』

〔発表者〕：T・プラン株式会社 代表取締役社長 寺下 満氏

〔概要〕： 太陽光発電の安定利用を可能にした電力供給システム「青空コンセント」についてご紹介していただきました。「青空コンセント」はガレージ型の充電ステーションで、「風でなびく太陽光発電パネル」・「蓄電池」・「制御装置」・「コンセント」で構成されています。屋外の電源としてだけでなく、小型電気自動車、シニアカー及び電動アシスト自転車などの充電や非常用電源としても使用することができます。また、本製品は基礎工事が不要で駐車場 1 台分のスペースがあればどこにでも設置可能で、「風でしなるR形状フレーム」「強風を逃すための風でなびく太陽光発電パネル（特許出願中）」などを採用しており、屋外環境における強風などの外部環境への対策も施されています。

来場者アンケートでは「とても参考になった」「当社と組んでビジネスをしたい」という声が多く、早速問い合わせが寄せられているそうです。プレゼン後の展開が期待されます。

○『業務用電気給湯器「ほっと・エコーナイト」等の紹介』

〔発表者〕：株式会社デンケン PA 事業部 課長 鶴原 清二氏

株式会社日本環境リバレンス ほっと・エコー事業部 課長 竹田 浩太郎氏

〔概要〕： 業務用電気給湯器「ほっと・エコーナイト」について紹介していただきました。本製品は「安全」・「低価格」・「省エネルギー」を実現した発熱装置で、特徴として熱伝導率が高いこと、エネルギー転換効率が 95%以上であることなどが紹介されました。また、深夜電力の使用によりランニングコストは重油と比較して 70～80%のコストダウンが実現でき、1 ユニットあたり 1 日約 20 トンのお湯が使えます。導入前に比べて約 80%のコストダウンに繋がったという某介護施設の事例には、会場から質問が寄せられていました。

来場者アンケートでは、「本製品を購入してみたい」や「当社と組んでビジネスをしたい」といった声もあり、来場者の関心の高さが伺えました。



T・プラン(株) 寺下氏



(株)デンケン 鶴原氏
(株)日本環境リバレンス 竹田氏



交流会の様子

第70回エコ塾

【開催日時】平成25年7月4日（木）17：00～

【参加人数】講演会：47名 / 交流会：28名

○『間伐材を使ったオフィス用品（木になる紙）のご紹介』

〔発表者〕：株式会社ファイル 代表取締役 滝 剛也 氏

〔概要〕：九州の間伐材を使用した『木になる紙』の販売を通じた様々な取組についてご説明していただきました。この取組は、商品代金の一部を森林所有者に還元する仕組みにより、消費者と森林を結び林業・山村の活性化、地球温暖化防止に貢献しています。さらに1箱あたり約1kgのカーボン・オフセットが付いていますので、購入いただいた方のCO2排出量を相殺（オフセット）することもできます。

これまで「木になる紙」は約100万箱を売り上げ、カーボン・オフセットで約587トンのCO2を削減、間伐材使用で5000トン以上のCO2を吸収しています。

また、平成18年12月、九州・沖縄を含む8県庁・林野庁・民間企業で構成する『国民が支える森林づくり運動』推進協議会を設立し、森林づくりを応援する運動も行っています。今お使いの紙を「木になる紙」に替えるだけで、森林づくりと地球温暖化防止の活動に参加できます。

来場者アンケートでは「とても参考になった」「当社の製品を購入したい」という声が非常に多く、今後益々の展開が期待されます

○『ドミックスの環境対応印刷でお客様の環境競争力を強力にサポート！』

〔発表者〕：株式会社ドミックスコーポレーション 営業部 第三グループ 主任 竹下 誠雄 氏

〔概要〕：「環境対応印刷」についてご紹介いただきました。「水なし印刷」：一般的な印刷方法では大量に湿し水を使用します。「水なし印刷」は、シリコン層を用いることで湿し水を一切使用しません。さらに、現像工程においても現像液量・廃液ともに大幅に削減でき、環境への負担を格段に少なくする印刷方法です。インキが水でにじむことがなく、正確な色再現で美しく仕上げます。当社はこの印刷方法を九州でいち早く取り入れました。「Non-VOC インキ」：植物油含有量を増やし石油系溶剤を削減した環境対応インキです。この他にも環境に配慮した様々な取組を行っています。

これらの取組が評価され、当社は、日本印刷産業連合会がグリーン基準に基づき、

印刷資材・工程・会社の取組を証明する「グリーンプリンティング認定工場」として認定されました（九州第一号）。

来場者アンケートでは、「とても参考になった」「当社の製品を購入（注文）したい」「もっと詳しく知りたい」という声が多く、印刷にも環境に配慮した取組ができるということを多くの方に知って頂く良い機会となり、今後の広がり期待するばかりです。

○『意外と簡単！ “カーボン・オフセット” でエコ販促しませんか？』

〔発表者〕：環境テクノス株式会社 企画開発部・主任 武下 明義 氏

〔概要〕：地球温暖化防止活動の一つである「カーボン・オフセット（※）」についてご説明いただきました。カーボン・オフセットは取り組み易く、地球温暖化防止活動の第一歩として最適です。また、今年度は九州経済産業局によるJ-クレジット制度のソフト支援事業の一環として「カーボン・オフセットの実施支援」があるため、カーボン・オフセット実施に係る費用が大幅に軽減されます。

来場者アンケートでは「とても参考になった」「こんなにたくさんのクレジット活用方法があるとは知らなかった」などのお声があり、本取組が、地球温暖化対策の一助となることを期待しています。

（※）カーボン・オフセットとは、自らの活動（事業活動や生活）から排出される温室効果ガスについて、削減努力を行った上で、どうしても削減できない温室効果ガス排出量を、他の場所で行われた削減・吸収活動に投資を行うこと（クレジットの購入）により相殺し、自らの排出に責任を持つ取組です。



（株）ファイル 滝氏



（株）ドミックスコーポレーション 竹下氏



環境テクノス（株） 武下氏



講演会の様子



交流会の様子

第71回エコ塾 with F V M

【開催日時】平成25年8月30日（金）15：00～

【参加人数】講演会：86名 / 交流会：51名

○『シャインブライト及びシャインブライト投光器について』

〔発表者〕：熊本電気工業株式会社 開発製造課 主任 福田 優太 氏

〔概要〕： 大幅な照度アップとランプ容量の削減が期待できるシャインブライトについてご紹介をしていただきました。

このシャインブライトの特徴としては、①反射率（明るさ）を向上させるための鏡面処理、②光がもつ力を最大限に生かす多面体構造、③照射範囲の調整です。

他社製品高効率反射笠（反射率 95%）と当社のシャインブライト（反射率 93%）との照度比較では、当社製品を使用した方が平均 66%照度がアップしました。

2009 年には佐賀県立高校をはじめ、53 校に 1430 台導入し、約 50%もの省エネを達成しています。また、「シャインブライト」は、平成 23 年度の省エネ大賞を受賞しています。

来場者アンケートでは、「参考になった」「製品を購入してみたい」「一緒に組んでビジネスをしたい」といった声が多く、今後のビジネスの発展が非常に楽しみです。

○『EV（電気自動車）急速充電器設置及び関連システム』

〔発表者〕：Clair（クレア）株式会社 代表取締役 江川 徳幸 氏

〔概要〕： 当社は、EV 用急速充電器では No1 の設置実績・信頼性を有する日産の急速充電器を取り扱っています。

調査、設計、据付、電気工事や補助金申請など、ワンストップで対応し、充電時間を利用した様々なご提案をしています。

当日アンケートでは、「参考になった」「製品を購入したい」「一緒に組んでビジネスをしたい」といった声があり、参加者の関心を誘うプレゼンでした。

○『次世代小型風力発電装置・システム普及事業』

〔発表者〕：株式会社ジャパンニューエナジー 代表取締役 関口 修一 氏

〔概要〕： 設置環境や目的等に柔軟に対応できる、小型風力発電装置・システム「ウィンドフューチャー」についてご紹介をしていただきました。

本システムでは風速 1m/秒の微風でも発電することが可能な、次世代風力発電です。

来場者アンケートでは、「参考になった」「製品を購入してみたい」「一緒に組んでビジネスをしたい」という声もあり、これからの活躍が楽しいプレゼンでした。

○『ワイビーエムの取組 地中熱利用のすすめ』

〔発表者〕：株式会社ワイビーエム 技術本部 環境開発室 大久保 博晃 氏

〔概要〕： 地中熱を利用したヒートポンプシステムについて紹介をしていただきました。地中熱利用のため季節・天候に左右されず年中安定して使うことができ、エアコン（空気熱源ヒートポンプ）に比べて 3～5 割の消費エネルギー削減効果があります。

当社の本社工場・事務所でもこの地中熱システムを導入しており、夏季には 67%ものエネルギーを削減できました。

来場者アンケートでは、「参考になった」「内容について更に詳しく知りたい」

「一緒に組んでビジネスをしてみたい」という声があり、早速問い合わせもあり、今後の事業展開が期待されます。



K-RIP 嶋田氏



FVM 神田橋氏



講演会の風景



交流会の風景



熊本電気工業（株） 福田氏



Clair（クレア）（株） 江川氏



（株）ジャパンニューエナジー 関口氏



（株）ワイビーエム 大久保氏

VI. K-RIPマネージャーのご紹介

K-RIPの各事業を効果的・効率的に進めるため、統括マネージャー1名、マネージャー1名を配置し、それぞれ月15日程度活動しています。

御用の際は、お気軽にご相談ください。お待ちしております。

《 統括マネージャー 江口 博 》

私たちの地元九州は、大工業都市であった北九州市を代表として、長い間、公害問題の解決に取り組んできました。現在では、問題の克服に留まらず、一人ひとりの高い環境意識に繋げ、なかには問題を強みに昇華させた事例さえあります。一昨年、我が国は東日本大震災という未曾有の災害に見舞われ、大きな分岐点を迎えました。今回の震災は、各論の議論に留まることなく、様々な分野、視点から横断的に捉え、日本人としてのアイデンティティを再考しなければならない契機となりました。「環境」という概念も、震災の前後では大きく変化したのではないのでしょうか。私がK-RIPに携わり5年目を迎えました。環境の時代と言われはじめたのは、更にその数年前になります。環境産業というキーワードは定着しましたが、概念、産業としては成熟していないと思います。だからこそ、ビジネスチャンスの天井は未だに見えてないのです。ニーズとは「必要に迫られたモノ」だけでなく、「要求を満たすモノ」であり、更にその要求は「見出すコト」と「創造するコト」であると考えようになりました。

K-RIPはこれまで以上に、環境貢献と経済の復興、そして人材の育成に尽力し、現在の危機に対して正面から立ち向かって参る所存です。具体的には、イノベーションの創出や、各種技術の融合により生み出された九州の魅力ある製品やサービスを、全国に広めるべく、全国各地の環境クラスターとの積極的な連携を図ります。

皆様のビジネスの創出・拡大にお役にたてるよう努めて参りますので、お気軽にご相談ください。



《 マネージャー 嶋田 駿一 》

国内市場の縮小や労働力人口の減少というトピックスは巷間喧伝されて久しいものがあります。これは同時に日本が今後も競争力を維持していくためには、海外との連携や人材交流を行っていくことが必要不可欠であることを意味してもいます。

「環境問題」が容易に国境を越えた「国際問題」にも発展しうる昨今において、多くのノウハウと先進性を備えたK-RIP会員企業の提供するソリューションは、海外展開するに十分なポテンシャルと課題解決力を秘めていると考えています。

一方で海外とのビジネスに関する入口は、その質・量ともにまだ十分であるとはいえません。玉石混交である海外ビジネス情報の中から、質の高いパートナーや支援策をすくい上げて会員に提供し、新規事業の創出につなげ、フォローをしていく、という流れを生み出していくために尽力していきます。

「九州発の環境ビジネスを世界に」を実現するべく、会員のみなさまと積極的に交流してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



VII. 平成 25 年度 K-R I P 事業計画

平成 25 年度の事業計画は、以下のとおりです。本年度下期では、全国展開を見すえた環境ビジネスアライアンスマッチングセミナー、大企業との環境ビジネス交流会、海外へはマレーシア環境ビジネスミッションなどを予定しています。またエコ塾も毎月木曜日に開催を計画しています。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時	事業名	場所	連携団体
平成 25 年 4 月～ 平成 26 年 3 月	エコ塾（毎月第二木曜日開催）	福岡合同庁舎（本館）	九州経済産業局
平成 25 年 4 月～ 平成 26 年 3 月	K-R I P プロジェクト （審査会：4 月 24 日、4 件採択）		
平成 25 年 5 月 10 日	第 1 回 マレーシア環境ビジネス研究 セミナー開催	毎日西部会館（北九州）	北九州商工会議所 ジェトロ福岡 九州経済産業局
平成 25 年 5 月 29 日	K-R I P 役員会、総会	福岡市	
平成 25 年 6 月～ 平成 26 年 2 月	専門家派遣事業		K-R I P フェロー 日本技術士会等
平成 25 年 7 月 8 日 ～7 月 10 日	マレーシア（マラッカ州）政府機関の招 聘	福岡市、北九 州市他	九州経済産業局 北九州商工会議所
平成 25 年 8 月 30 日	第 71 回 エコ塾 with FVM	福岡市	フクオカベンチャーマ ーケット協会
平成 25 年 9 月 4 日	拡大版エコ塾 in おおいた（第 72 回）	大分市	大分県エネルギー産業 企業会 大分県
平成 25 年 9 月 10 日	第 2 回 マレーシア環境ビジネス研究 セミナー	毎日西部会館（北九州）	北九州商工会議所 ジェトロ福岡 九州経済産業局
平成 25 年 10 月 7 日～ 10 月 12 日	九州－マレーシア環境ビジネスミッシ ョン	マレーシア マラッカ州	九州経済産業局 ジェトロ福岡 北九州商工会議所
平成 25 年 10 月 16 日 ～10 月 18 日	環境展示会出展事業 （エコテクノ 2013 に出展）	北九州市	西日本産業貿易コンベン ション協会

平成 25 年 10 月 17 日	環境ビジネスアライアンスマッチング セミナー in 北九州 (他地域のマッチングセミナーにも参加予定)	北九州市	近畿・沖縄等他地域支援 機関
平成 25 年 10 月 24 日 ～10 月 26 日	環境展示会出展事業 (びわ湖環境ビジネスメッセ 2013)	滋賀県長浜 市	
平成 25 年 11 月	第 3 回 マレーシア環境ビジネス研究 セミナー	毎日 西部会 館 (北九州)	北九州商工会議所 ジェトロ福岡 九州経済産業局
平成 25 年 11 月 7 日	第 73 回エコ塾	福岡 合同庁 舎 (本館)	九州経済産業局
平成 25 年 12 月	環境ビジネス交流会	福岡市	九州経済連合会
平成 25 年 12 月 5 日	第 74 回エコ塾	福岡 合同庁 舎 (本館)	九州経済産業局
平成 26 年 1 月	環境イノベーションフォーラム	未定	EPO 九州 九州経済連合会
平成 26 年 1 月 15 日	第 75 回エコ塾	福岡 合同庁 舎 (本館)	九州経済産業局
平成 26 年 2 月	第 76 回エコ塾	未定	九州経済産業局
平成 26 年 3 月 13 日	第 77 回エコ塾	福岡 合同庁 舎 (本館)	九州経済産業局

【Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza】(K-RIP)

九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ (K-RIP) 事務局



〒812-0013
福岡市博多区博多駅東 2 丁目 13-24
(一財)九州産業技術センター内
TEL 092-474-0042
FAX 092-472-6609
URL <http://www.k-rip.gr.jp/>
e-mail info@k-rip.gr.jp



平成 25 年 10 月 発行